

まちづくりやボランティアなどに参加している
地域活動の担い手をシリーズで紹介します



幼虫の放流を見守る理科研究部員
たち。子どもたちの自然保護の気持
ちが育つことを願っています

ホタルを育て、

自然を守る。

かつて、拓北・あいの里地区には、夏になるとホタルが飛び交う光景があちこちに広がっていました。しかし、現在では、その姿を見ることはほとんどありません。

今月は、ホタルの幼虫の放流会や成虫の観察会を通じて、自然環境保護の地域活動に取り組んでいる、札幌拓北高校理科研究部の活動を紹介します。

理科研究部では、毎年五月にあいの里東小学校（北区あいの里三條七丁目）の児童たちと一緒に、あいの里公園内にある通称「ホタル池」で、ホタルの幼虫の放流会を実施しています。七月末頃には、地域の住民や小中学生約二百人を招待し、成虫になったホタルの光の観察会を開催しています。

同部でホタルの飼育を担当しているのは、二年生の江渡尚典さんたち六人。江渡さんに、活動を通して感じたことや、活動への思いについて聞きました。「小学生や地域の人たちに、本物のホタルの光を喜んでもらえたことが、すごくうれしかったです」と語る江渡さん。特に子どもたちには、幼虫の放流会や成虫の観察会を通じて、身近にある自然を守る気持ちや、環境のことを考える心をはぐくんでもらいたい、と話していました。

同部の顧問を務める加藤聡先生は、部員たちの取り組みについてこう話します。「このホタルの放流の取り組みは平成八年にスタートし、今年で十四回目を迎えました。地域の小学校や中学校、住民の皆さんの協力により、今ではたくさんの方々とともに楽しみ、触れ合うことができる地域の行事として定着したと思います」

実際に、このホタルの光観察会を毎年心待ちにしている地域の人たちも数多くいるそうです。

部員たちの目標は、もう一度拓北・あいの里地区にホタルが飛び交う環境をつくること。高校生たちの地道な活動は、これからも続きます。大きな目標に向かって取り組む部員たちの、生き生きとした表情がとても印象的でした。



手作りの資料を使って、ホタルの発光について児童たちに説明する江渡さん(左)

理科研究部の活動

理科研究部の部員たちは、放流会や観察会に参加する児童たちに、ホタルの生態やホタルが住める環境づくりについて学んでもらうため、自分たちで手作りした資料を使って説明を行っています。

また、放流したホタルが成虫になるまでの間には、地域住民の皆さんと協力して、池周辺の草取りや池の清掃を行うなど、ホタルが住みやすい環境作りに取り組んでいます。

ホタルの飼育以外にも、学校近くにある篠路福移湿原の調査など、身近な自然を守るための活動も行っています。

問い合わせ

札幌拓北高校理科研究部

顧問 加藤教諭

☎ (778) 9131